

2021年4月11日（日）メッセージアウトライン 「滅びた宮、滅びない宮」

聖書箇所：Iコリント3：4～16

タイトル：「滅びた宮、滅びない宮」

テーマ：本日の聖書箇所で、パウロはコリント教会に生じていた分裂分派の問題を取り上げ、

その原因と解決法を提示しています。そこにまことの神の宮を建て上げるヒントがあります。神の宮の土台はキリスト、その宮に住むお方は聖霊です。神がその内におられないなら、それは神の宮とは言えません。ただの建物です。

旧約時代にもイスラエルの民の中には神の住まわれる神殿がありました。でも、その神殿は滅びてしまいました。なぜでしょうか。

「あなたがたは自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか」（Iコリント3：16）という今年度の年間聖句は、かつては罪人であった私たちが、聖霊を宿す者とされ、神の願っておられる新しい人に造り変えられていくという驚くばかりの恵みを知ってほしい、というパウロのメッセージです。聖霊なる神が内住される宮は決して滅びることはありません。

滅びた宮と滅びない宮を比較しながら、神の恵みを受けた者として、私たちはどのように聖霊の宮を建て上げていきましょうか。

1. 「神の宮」について考える

①「神の宮」と聞いて、どんなものを思い浮かべますか？

*日本人の思い浮かべる宮

*イスラエルの神殿

・モーセの幕屋

・ソロモンの神殿

・ヘロデの神殿（イエス様が人として来られた時は、この神殿が存在していた）

②神はどこにご臨在を示されたのか？

*日本では（もともと、偶像の神なので実在しない、意味不明のご神体の存在）

*イスラエルでは

・モーセの時代（出エジプト25：8～22）

・ソロモンの神殿以降（I列王8章）

後に、主がこの神殿から出て行かれた（エゼキエル10章）

・バビロン捕囚から帰還した民が造った神殿をヘロデが拡張（cf.ヨハネ1：14）

2. 「あなたがたは神の宮、神の御霊が住んでおられる」

①コリント教会の分裂分派の原因と彼らの勘違い

②神の畑、神の建物、神の宮

* 神の畑——お世話する人（種を蒔き水をやる人）、成長させて下さるお方（神）

* 神の建物——土台を据える人（指導者ここではパウロやアポロ）、土台となるお方（イエス・キリスト）

* 神の宮——御霊を宿す人（イエス様を救い主として信じる人々）、内住して導いて下さるお方（神の聖霊）

3. 「その日」が明らかにする建物の評価

① 「その日」——主の再臨のとき

② 「その日」は「火」とともに現われ、その建物を建てた人の働きを試す

* 聖霊を宿す人の建物（2種類ある。建物が残る人と建物が焼けてしまう人）

③ 私たちに与えられている驚くばかりの恵み

4. 結論

① 土台を据える者（本来なら滅んでいく人）と土台であるお方（イエス・キリスト、永遠なる神）を混同しないように。

② 滅びない宮（聖霊を宿す者）とされた者の使命と責任——「真のエクレスシア」として生きる